

令和元年度第1回地方独立行政法人加古川市民病院機構評価委員会 議事要旨

日時 令和元年7月9日(火) 14時00分から15時55分
場所 加古川中央市民病院 講堂「光(キラリ)ホール」
出席者(委員) 森脇委員長
加堂副委員長
石井委員
中田委員
溝端委員

報道関係者 1名
傍聴者 0名

会議次第 1. 開会
2. 諮問書の提出・受理
3. 議題
(1) 令和元年度の評価委員会開催予定について
(2) 平成30年度運営状況の概要について
(3) 平成30年度業務実績に関する評価について
(4) その他
4. 閉会
5. 事務連絡

配付資料

資料1: 令和元年度評価委員会の開催予定

資料2: 平成30年度経営状況(概要)

資料3: 平成30年度財務諸表等

- (1) 財務諸表及び附属明細書
- (2) 決算報告書
- (3) 事業報告書
- (4) 会計監査人監査報告書
- (5) 監事監査報告書

資料4: 平成30年度業務実績報告書

1. 開会	<p>開会の宣言</p> <p><井部部長あいさつ> 評価委員の皆様のご指導及び理事長をはじめ、市民病院機構職員の皆様のご尽力により、運営、経営ともに順調に進んでいる。委員の皆様には、市民病院機構のあるべき姿、進むべき姿、方向性について、慎重にご審議いただき、市民の皆様にとって、安心して暮らしていけるためになくてはならない病院になっていけるよう、お力添えをお願いしたい。</p> <p><森脇委員長あいさつ> 新たな委員を迎え、ますます評価委員会の層も厚くなった。よりよい委員会にしていきたい。市民病院機構においては、中期目標期間があと2年となり、今後は、今以上に医師一人ひとりが患者と向き合い、患者のための診療をできているかを常に自問自答しながら取り組み、一步一步進んでもらいたい。</p> <p>石井委員、市民病院機構の出席者及び事務局より自己紹介</p>
2. 諮問書の提出・受理	市長が公務のため、井部部長が諮問書を読み上げ、森脇委員長へ手渡した。
3. 議題	<p>(1) 令和元年度の評価委員会開催予定について 令和元年度の評価委員会の開催予定について、資料1に基づき事務局から説明を行い、了承いただいた。</p> <p>(2) 平成30年度運営状況の概要について 平成30年度の運営状況の概要について理事長から報告があり、続けて、経営状況及び決算概要について、資料2に基づき法人担当者から説明を行った。</p> <p>(主な意見、質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備投資や職員採用の増で費用が増加している中、医業収益が増加しているのは非常に良い経営をしている。 ・開院以来、各部署が連携し、同じ目標に向かって取り組んでいる結果が、今の経営につながっている。 ・働いている人のモチベーションと患者満足度を充実させながら、今の経営状況を続けてほしい。 ・病院として着目している点が多く、乳腺外科の新設などで医師も充実している。今後は、地域医療を充実させていくためのリーダーシップを発揮してもらい、ますます良い病院になってほしい。 <p>(法人回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療の質を高めていく、高度医療をしていく中で、何が必要かを考えながら取り組んでいる。現在は、ゲノム医療への取組や各診療科で卓越した技術をもつよう努力している。また、新しい医療機器を導入することで、最新の機器を使用できるということで医師のモチベーションも上がる。そのような環境が大学にも伝わっており、若い医師が来てくれ、経験のある医師も来てくれているなどいい状態となっている。

	<p>(3) 平成 30 年度業務実績に関する評価について</p> <p>平成 30 年度の業務実績の概要及び法人の自己評価のポイントについて、資料 4 に基づき法人担当者から説明を行った。</p> <p>(主な意見、質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員のモチベーションを上げるために、何らかの形で職員へ還元していることはあるのか。 ・近隣の病院から中央市民病院に患者が集中しているという声を聞く。配慮はしていると思うがどのように対応しているのか。 ・地域の医療のために、積極的に指導力を発揮してもいいのではないか。サテライト的な病院の検討や地域の機能分担をはっきりさせるなどをし、患者の流れを把握しておく必要がある。地域全体の医療をある程度確立的なものにしてほしい。 ・職員に疲弊感はないか。 <p>(法人回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は職員の賞与を上げ、還元させてもらった。 ・外来患者数が増加しており、多い日では 1,700 人が来院する。なるべく再診患者は、地域の先生方に診てもらうようにしている。初診で 3 ヶ月待ちになる診療科もあり、再診は地域に帰し、初診を早く診るようにしている。 ・周りの病院と連携を取りながら、急性期の患者は当院で治療し、急性期を経過した患者は回復期の病院で在宅復帰できるよう継続治療し、退院後はかかりつけ医で診てもらうということが、地域医療構想の姿だと考えている。 ・自主的に自分の立ち位置を考えるように職員に言っている。病院としても、周りを見て、自分たちはどのようにするか、どこをポイントにして取り組むかということをしていかなければならないと考えている。 ・この数年間は走り続けており、少ししんどいと職員は思っていると思う。職員のモチベーションを上げる、疲弊感を減らすためにどうするか。職員数を増やし負担を減らすことも考えられる。一番大事なのは、本当にやりたいことかどうかということだと考える。 ・若い職員には、自分が成長していっているという実感を持ってほしい。それを上司がしっかりと認めるといような職場のコミュニケーションが今は少し不足している。職員の思っていることを聴き、それに対し、どう応えるかというような有効な話し合いをするため、この 4 月からコミュニケーションの活性化プロジェクトを始めている。 <p>(4) その他</p> <p>意見なし。</p>
4. 閉会	<p><加堂副委員長あいさつ></p> <p>業績が良いことは、職員の皆様の努力の賜物である。毎年評価をして気になることは、評価が「4」の項目は常に「4」となっているが、評価が「3」の項目も常に「3」というのが続いている。頑張っているとは思いますが、評価が「3」の項目についても頑張って取り組んでもらいたい。</p>